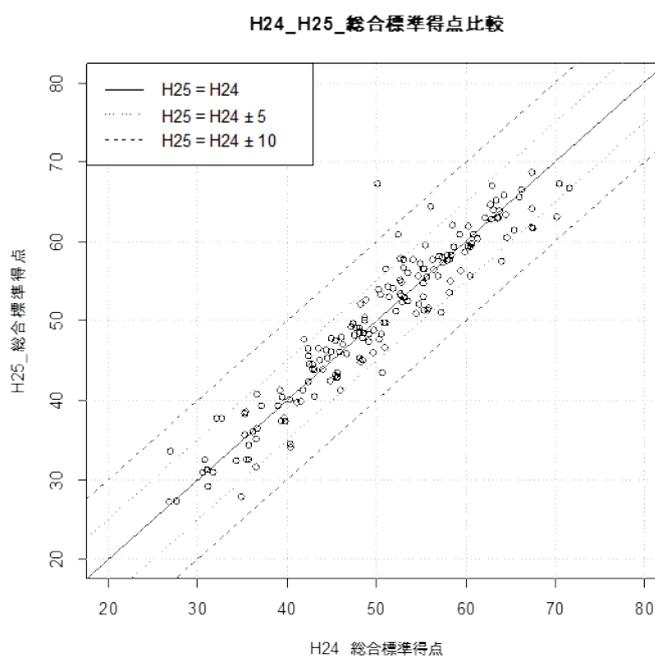


② 平成 24 年度 GTEC 受験グループ 標準得点差別学校数

平成 24 年度と平成 25 年度調査の「総合」の標準得点が 10 以上上がった学校が 1 校あり、10 以上さがった学校は 0 校だった。リスニングでは、5 以上上がった学校数が、5 から 10 さがった学校数を上回ったが、リーディングとライティングでは、5 以上上がった学校数が、5 以上さがった学校数を下回った。

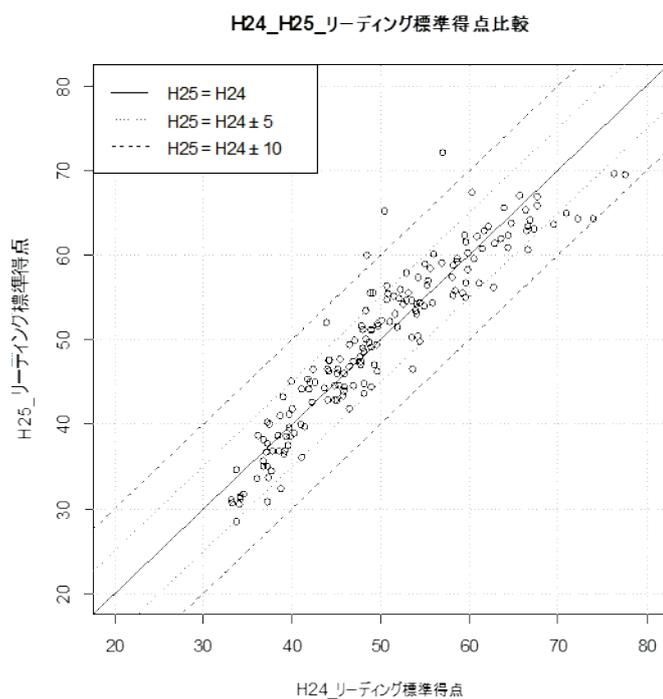
総合

平成 25 年度と 平成 24 年度の差	学校数
10 以上	1
5~10	8
-5~5	153
-10~-5	9
-10 以下	0



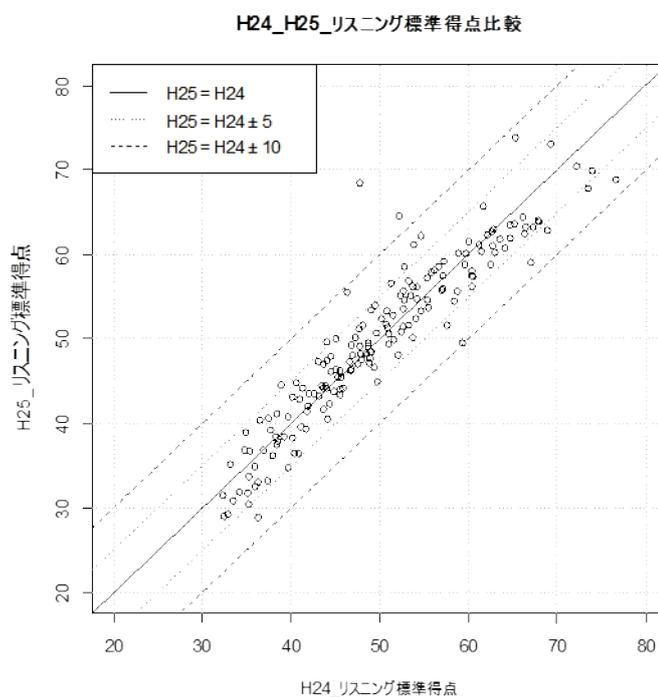
リーディング

平成 25 年度と 平成 24 年度の差	学校数
10 以上	3
5～10	7
-5～5	149
-10～-5	12
-10 以下	0



リスニング

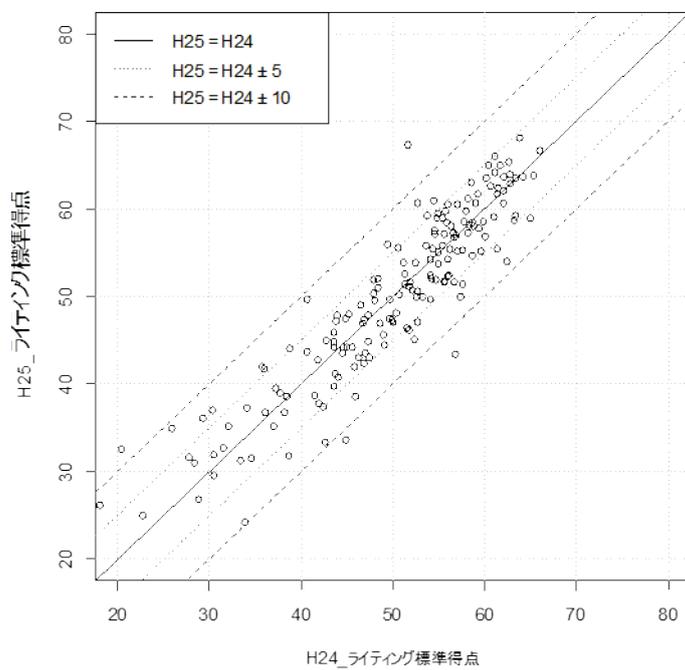
平成 25 年度と 平成 24 年度の差	学校数
10 以上	2
5～10	9
-5～5	153
-10～-5	7
-10 以下	0



ライティング

平成 25 年度と 平成 24 年度の差	学校数
10 以上	2
5~10	13
-5~5	140
-10~-5	14
-10 以下	2

H24_H25_ライティング標準得点比較



(3) 昨年度からの変化

① 昨年度指摘された課題に対する今年度の結果

昨年度指摘された課題のうち、以下の点は今年度も課題として挙げられている。

■ リーディング

- ◆ ある程度の分量の英文から、目的に応じて必要な情報や考えなどを読み取ることに課題がある。

■ リスニング

- ◆ 情報量が多い英文の内容を聞き取ることに課題がある。

■ ライティング

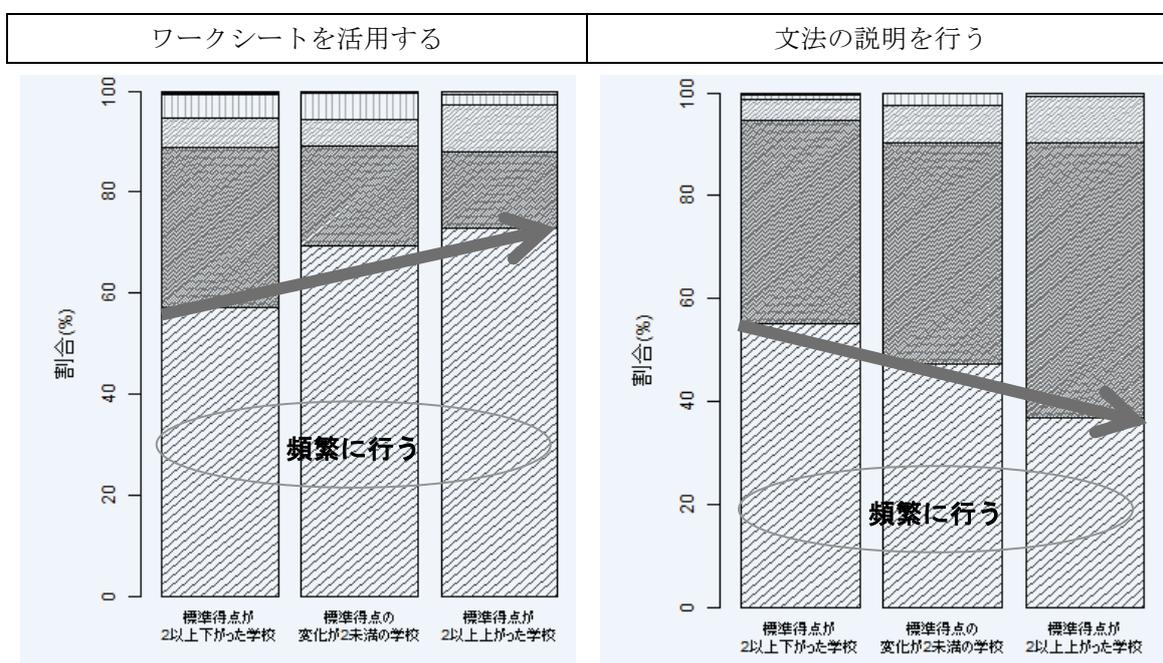
- ◆ 文章の構成を意識して書くことについては課題がある。
- ◆ 同じ単語を繰り返し使用する傾向が見られ、多様な語彙や表現を用いて相手に効果的に伝わるように工夫することに課題がある。

(詳細は、資料3：165ページ～194ページを参照)

② スコアの変化と質問紙調査結果のクロス集計

以下は、平成 24 年度に GTEC を受験して平均標準得点が中央値より高かった学校について、平成 24 年度から平成 25 年度への標準得点の変化と外国語科担当教員質問紙調査結果の関係を見たものである。

- 標準得点が上昇した学校ほど、ワークシートの活用を頻繁に行うと答えた教員の割合が多い傾向が見られる。
- 標準得点が上昇した学校ほど、文法の説明を頻繁に行うと答えた教員の割合が少ない傾向が見られる。



(4) 学校の取組紹介

○ 取組紹介 1 : 秋田県立秋田工業高等学校

平成25年度の英語の履修単位数

1年生「コミュニケーション英語Ⅰ(3単位)」、2年生「英語Ⅱ(3単位)」<進学コース>「ライティング(2単位)」、3年生「英語Ⅱ(2単位)」<進学コース>「リーディング(3単位)」

産業界においてグローバルに活躍できる人材の育成、輩出が本校の使命でもある。そのためには英語のコミュニケーション能力を身に付けることは不可欠であり、英語が使える工業高校生を育成することを目標として、平成24年度、25年度の2年間は次のような取組を行った。

1. 朝学習(8:30~8:45)の活用

- ① 月曜日は英語のリスニング学習 ② 木曜日は英単語の書き取り学習

本校では毎朝15分間の朝学習タイムを設定しており、月曜日は放送を使ってリスニング問題に全校で取り組んでいる。工業に関連した専門用語や表現を中心に、問題の作成から録音まで常駐しているALTが担っている。各定期考査の一部にもリスニング問題を入れているが、朝学習で取り組んだ中から出題している。

木曜日は、語彙力強化のために英単語の書き取り練習を行っている。

<朝学習の練習問題例>

英語 リスニング朝学習 No. 3 (Sep. 30)

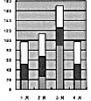
1. 放送をよく聞いてそれぞれの単語がどの職業をさすのか、記号で答えなさい。

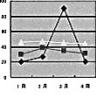
(1) () (2) () (3) () (4) () (5) ()

ア	イ	ウ	エ	オ
機械工	配管工	コンピュータプログラマー	建築家	電気工

2. 次の図表は英語でなんというでしょうか、放送を聞いて英語で答えなさい。

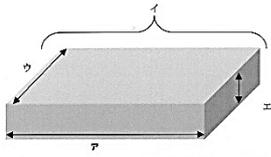
(1) _____ graph (2) _____ graph (3) _____ graph





3. 右の直方体(cuboid)についてKeith先生が長さ、高さ、幅、体積について説明しています。それぞれがどの部分の説明かを聞いて、矢印の記号を書きなさい。

(1) () (2) () (3) () (4) ()



(数字がヒントになるよ)

4. 次の図表は英語でなんというでしょうか、放送を聞いて、それぞれ下の図から記号を選び答えなさい。

(1) () (2) () (3) () (4) ()

あ	い	う	え
			
円錐	三角錐	円柱	球

5. 放送をよく聞いて、それぞれの動詞が下のどの動作をさすか、記号で答えなさい。

(1) () (2) () (3) () (4) () (5) () (6) ()

取り除く	ねじる・ひねる	組み立てる	維持管理する	測る	引っ張る
------	---------	-------	--------	----	------

解答を見てしっかり○付けをしてください。(提出だよ)

Class _____ No. _____ Name _____

2. 各種検定試験の活用

- ① リスニング英語検定
- ② TOEIC Bridge テスト
- ③ TOEIC IP テスト
- ④ 実用英語技能検定

全国工業高等学校長協会主催のリスニング英語検定は、24年度は全員受検、25年度は1年生全員と2、3年生でより上位の級の取得を目指す希望者が受検した。

TOEIC-Bridge テストは1、2年生全員を対象に実施している。TOEIC-IP テストは進学コース全員と就職コースの希望者に対して年2回実施している。

3. 授業における取組

英語のコミュニケーション能力育成の入り口として、クラスルーム・イングリッシュの指導を年度当初に一定期間行い、英語を使用した授業がより円滑に

展開できるように配慮している。また、生徒全員が平等にALTの指導が受けられるように、各学年や各クラスのティーム・ティーチングの実施回数に偏りがないように調整している。ティーム・ティーチングでは主に工業英語に関連した語彙や表現の習得に焦点を当てて行っている。

秋田県の事業にも積極的に参加する生徒が増えている。一つには、工業学科で学ぶ高校2年生若しくは1年生9名を募集した、「平成25年度高校生海外企業研修」に本校から5人の生徒が参加した。もう一つは、「平成25年度イングリッシュ・キャンプ」事業に本校から3名が参加するなど、英語を学ぶことに積極的な生徒が目立ってきた。県を代表する工業高校だからこそ、グローバル社会における英語のコミュニケーション能力の必要性を感じている生徒は多い。朝学習で取り組んだ工業英語や資格試験等で学習した実践的な英語が、彼らの将来にとって必要感があり、より身近で、実用的であることがモチベーションの向上につながっていると考えられる。

<朝学習の解答例>

<解答と解説> つづりも練習しよう！(下線部)

1.

(1) electrician (電気工) (2) plumber (配管工) (3) architect (建築家)

(4) computer programmer (5) mechanic (機械工)

2. (1) bar graph (2) pie graph (3) line graph

棒グラフ 円グラフ 折れ線グラフ

3. (1) ウ the width of this cuboid is 2cm. (この直方体の幅は、2cmです)
 (2) エ the height of this cuboid is 1cm. (この直方体の高さは1cmです)
 (3) ア the length of this cuboid is 6.5cm. (この直方体の長さは6.5cmです)
 (4) イ the volume of this cuboid is 13cm. (この直方体の体積は13立方cmです)
 (*体積は volume, 立方は cubic)

4. (1) い (2) う (3) あ (4) え
 triangular pyramid cylinder cone sphere
 三角錐 円柱 円錐 球

5. (1) twist ひねる (2) maintain 維持管理する (3) pull 引っ張る

(4) remove 取り除く (5) assemble 組み立てる (6) measure 測る

* disassemble 解体する

○ 取組紹介 2 : 栃木県立佐野高等学校

平成25年度の英語の履修単位数

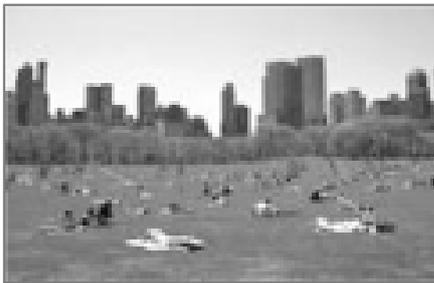
1年生「コミュニケーション英語Ⅰ(4単位)」「英語表現Ⅰ(2単位)」「Critical Thinking Program(学校設定科目)(1単位)」、2年生「英語Ⅱ(4単位)」「ライティング(2単位)」、3年生「リーディング(5単位)」<国立文系・私立理系>「ライティング(3単位)」<私立文系>「ライティング(5単位)」<国立理系>「ライティング(2単位)」<私立文系の希望者のみ>「英語研究(2単位)」

1. 授業における「アウトプットの機会」を増やす

全学年において、なるべく授業中にアウトプットする機会を増やした。これは、スピーキング練習によるものであったり、教科書本文の内容をサマリーとして書いてまとめるものだったりアプローチの方法は様々であるが、今までよりも教員自身が意識して生徒が英語でアウトプットをする量を増やすように工夫した。

教室内スピーキング活動例①

人物や建物などの写真を黒板に掲示する。生徒はペアになり、お互いにその写真について、思いついたことを自由に言い合う。例えば、公園の写真を見て、お互いどう思うか意見を言い合う。



(生徒の発話のまま)

- A: Central Park is in New York City. It is a huge park that is very popular in summer. People relax, read, and enjoy time together.
- B: Oh, I've never been there. The buildings look so close in the picture. The park must be close to the downtown area.

教室内スピーキング活動例②

教科書に出てくる新出単語をあらかじめ画用紙に書いておく。生徒はペアになり、教師がその単語を生徒 A にだけみせる。生徒 A は生徒 B に対し、その単語の意味を英語で説明する。生徒 B は、生徒 A が説明している語がなんであるかを推測する。

insect

(生徒の発話のまま)

- A: Well, a small animal? Creature.
- B: Creature?
- A: Yes. For example, ant, .beetle.
- B: I know! But I can't remember the spelling.
- A: It starts with "i."
- B: Now I remember. Insect!

教室内スピーキング活動例③

4コマ漫画などの絵を用意する（下記の例では、銭湯の入り方に関する4コマ漫画を使用）。生徒はペアになり、生徒 A は生徒 B に、接続詞などを使って絵の流れを説明する。

(生徒の発話のまま)

- A: First, take a washing towel and a bath towel, and go into the bath entrance. There are separate entrances for the men's and women's baths. Then, at the entrance, take off your shoes.....

2. ALT の活用を増やす

今年度は、ALT とのティーム・ティーチングの回数を増やした。また、授業以外の場面においても、様々な場面で指導を協力してもらった。例えば、①スピーチ大会に向けた練習の指導 ②海外語学研修のための事前指導 ③3年生に対する英作文の個人指導 などである。特に、スピーチ大会については、毎日のように放課後まで指導を手伝ってもらった。

3. 授業以外の学校行事で英語を活用する場面を増やす

①台湾への修学旅行

一昨年より、高校2年生が修学旅行で台湾を訪れている。学校間交流を行ったり、グループ行動の際に現地の大学生（チューター）と交流したりするなど、生徒が実際に英語を使用する機会を持つことができた。生徒にとっては英語に対するモチベーションを向上させる良い機会となり、非常に有意義な修学旅行となった。

②海外語学研修

高校1年生の希望者が、語学研修としてカナダを訪れる。ホームステイや現地校での交流等に取り組む際、実際に英語を活用することになるので、事前研修にも意欲的に取り組んでいる。

③イングリッシュ・キャンプ

上記①及び②に加えて、今年度から英語を活用することができる行事を2つ取り入れた。その1つがイングリッシュ・キャンプである。生徒は生きた英語を学ぶとともに、異文化に対する理解を深めることができた。また、自分の意見を英語でわかりやすく相手に伝える方法なども学んだ。



④宇都宮大学国際学部の学生との交流

③と共に、今年度新たに取り入れた行事である。宇都宮大学国際学部の留学生が来校し、プレゼンテーションを行ったり意見の交換をしたりして、異文化理解を深めた。これらの行事により、生徒は視野が広がり、発表を行ったり自分の意見を述べたりする際には、物事を論理的に思考することが必要であることを強く実感したようである。

以上のように、学校行事で英語を活用する場面を増やし、学校全体で生徒を支援していこうと試みている。

4. 外部検定試験（実用英語技能検定、TOEIC IP、GTEC for STUDENTS）の実施

本校は併設型の中高一貫教育校として、今年度6学年の生徒がすべて揃い、今春初めての卒業生を出す。昨年度までは、英語検定などに対して積極的に受験しようとする雰囲気はあまりなかったが、中高一貫教育校に生まれ変わった機会を利用して、外部検定試験を学校で受験できるようにした。

具体的には、実用英語技能検定を準会場として学校で実施することにした。その結果、今まで